

2014年

携帯サイトへGo!→
携帯で教室便りが見られます



公文式本市場教室 火・木 3～7時 TEL 186-61-4936(上平方)

横割教室 月・水 3～7時 TEL 61-8891(福島方)

指導者：新妻ゆき子 携帯090-2260-0671

Eメール:yvonne-yukiko@mbi.nifty.com

携帯アドレス:yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp

ゆきこくもん

検索

ホームページ <http://www.yukiko-kumon.com>

教室だより 9月号

子どもの様子を見直してみましょう

いよいよ2学期が始まります。準備は整われましたでしょうか。

心機一転リスタート!の時期ですが、長期休暇が終わり、なかなか生活のリズムが戻らなかったり、そろそろ運動会の練習が始まったりして、子どもたちも彼らなりに疲労感を覚える時期でもあります。

公文の学習は、今自分が持っているパフォーマンスをフルに発揮して、例題を手がかりに、未知の問題に挑み、誘導問題で解答へのアプローチに馴染みながら、だんだん手際よくできるようになっていく。

そして、必要なだけの反復練習をくり返しながらか、不確かだったことを自分の力で腑に落とし、「わかる」から「できる」状態にして、それを技能にまで高めていくという学習スタイルです。

それだけに、お子さまの現在の心身両面のコンディションや学力の定着度合(いわゆる「ちょうど」のレベル)を見極めながら、お子さまがフルパフォーマンスを発揮できる環境を作ってあげる、チャレンジする意欲、前向きな気持ちを引き出してあげることが重要です。

子どもには家庭でしか見せない表情があります。また、逆に外でしか見せない姿もあると思います。

ご家庭でのお子さまの様子をぜひお聞かせください。また、ご遠慮なく、ご相談ください。

私たち公文式教室のスタッフも、お子さまの成長を見守り、バックアップさせていただけるサポーターのひとりでありたいと願っております。

公文式の創始者・公文 公(くもん とおる)先生の言葉より

「悪いのは子どもではない」

わたしたちは、あくまで「悪いのは子どもではない」と信じるところから出発します。子ども一人ひとりの可能性を発見し、個人別にその子どもの「ちょうど」のことを学習させていけば、親や先生はもちろん、本人にとっても思いもおよばなかったような成長をとげることができるのです。

適切な教材と個人別の指導によって「ちょうど」の学習を続けていけば、どの子どもも必ず素晴らしい伸びを見せてくれます。その結果、子ども自身が「自分にはこんなにも可能性があったのだ」と自信をもつことができます。そうなった時、子どもの瞳は輝きます。もっとその先へ挑戦したい、という意欲もわいてきます。親や先生にいちいち言われなくても「自分から」学習に取り組もうとする姿勢もついてきます。

もし、学習が順調に進んでいないとしたら、悪いのは子どもではありません。多くの場合、教材や指導が「ちょうど」でないのです。教室とご家庭がいっしょになって、お子さまの「ちょうど」を追求していきたい、と公文式は考えています。

2014年 9月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15 敬老の日	16	17	18	19	20
21	22	23 秋分の日	24	25	26	27
28	29	30				

本市場教室日□

横割教室日△

今月のことわざ

創意工夫

新しい方法や新しい考えをつくりだすこと。

「お父さんがつくる料理は、創意工夫したところがいっぱいある。」

「お兄さんは創意工夫して、いろいろな大きな本がならべられるたなをつくれた。」れた日は外で畑を耕し、雨の日は家の中で本を読む。

くもん出版刊「四字熟語カード」より

*ゆき子の一言コラム

音読と暗唱

よく、『子どものころ覚えたことは忘れない』と言われますが、本当にその通りで、小学生、中学生くらいに丸暗記した内容は、大人になってもかなり覚えています。それが、高校生、大学生くらいになってからの暗記したことは、不思議とけっこう忘れていくものです。大人になってからの記憶は、さらに忘れやすくなるようです。

また、子どものころは、意味が分からなくても音で覚えることができます。実は、学齢が上がるにつれ、意味の分からないものは覚えられなくなるので、名文や古典の暗記には、頭が柔軟な小、中学生のときに覚えてしまうのがいいのです。学校はもちろん家庭でも、できるだけ名文と一緒に音読し、覚えてしまうのがよいと思います。こうして覚えたことは、たとえそのとき、意味が分からなくても、いずれその内容、鑑賞がじわじわと理解できるようになるからです。つまり、難しい文章でも、親や大人がだいたいの意味を教えればよいことだし、場合によっては意味は教えずとも構いません。ですから、ご両親が座右の銘としている言葉。古典文学、その他これは覚えさせておこうという名文は、ぜひ子どもと一緒に声を出して毎日読むことをお勧めします。よくお風呂の中で数を数えますが、このときに暗唱するのも一つの方法でしょう。また、そのご家庭の宗教的信条により、聖書の一節や経文を暗唱するのもよいでしょう。

こうした音読、暗唱は脳を刺激し、活発にします。暗記は集中力を要しますから、集中力を養う訓練にもなります。さらに音読は、日本語の言葉のリズムを知り、文章感覚を磨くという効果もあります。

黙読ではなく、音読が優れているのは、自分で声を出した文章を、再度、自分の耳で聞くことになるからです。実際一回音読することで、二度繰り返していることになるのです。当然記憶を助けます。

また、声に出して読むことで、側にいる大人が、その出来具合を容易に確認することができます。つまり、途中でつかえてしまったり、止まってしまうところは、覚えていないところですから、すらすら読めなければ、まだ練習不足ということなのです。

すべての学校で、音読、暗唱の宿題が出されるわけではありません。ですから是非、ご家庭でお試ください。特に99の暗唱はゲーム感覚で親子で競争するのもいい方法です。

テレビ番組の影響

テレビ番組が子どもに与える影響は非常に大きいものがあります。子ども向け番組にも良し悪しがあります。ですから、子どもに見せる前に、それを親や大人は判断しなければならないのです。人気のアニメ番組だからといって、必ずしも「良い」とは限りません。例えば、主人公の言葉遣いが悪かったり、いじめや、嫌がらせを喜ぶ性格であったり、というそうした番組もあります。ですが、子どもは当然そうした主人公と自分を同一視しますので、いつしか同じような言葉遣いや性格が身についてしまうのです。ですから、子どもにテレビを見せる際には、「この番組を見ても良いかどうか…」ということを親や大人が判断しなくてはならないのです。子どもが勉強できるようになるためには、相応の環境が必要です。その一つがテレビ環境です。家庭がいつでも見る見ないに関わりなくテレビがつきっぱなしのなかで、勉強するのは大変困難なことです。子どもは、いろいろなものに興味を持ち、集中力をそがれますので、テレビで番組が流れている中での勉強は困難です。一方、先ほど述べたように、番組が子どもに与える影響も大きいのですから、良い番組を見せることで、子どもをうまく導くこともできるはずです。

皆様方も、一度子ども向け番組を、そうした視点チェックしてみたらいかがでしょうか。

以下にいくつかのチェック項目を述べますので参考にしてください。

- ・正しい言葉遣いをしているか。
- ・過度な暴力、攻撃性はないか。
- ・いじめや、極度の陰湿性はないか。
- ・発展的に、前向きにものごとを考えられるように導いているか。
- ・新たな知識を習得するなかで、喜びを感じるようになっているか。

お休みのときは電話でもメールでも結構ですので連絡をお願いします。

8月分の会費引き落としは8月28日（木）です。よろしく願いいたします。(注)休会・退会の場合は、引き落としの関係から15日までにお申し出下さい。最近 教室からお迎えの電話をする子で、電話代を置いていかない子がいます。大家さんから電話代が足りないと苦情がありました。お迎え電話を教室からする子には必ず電話代10円を持たせてください。